

# 7 環境部・指導案検討部

環境部では、誰もが安心して学校生活を送ることを目標とし、学校の環境整備を行った。その目標を達成するため、ユニバーサルデザインの考え方をもち、主に掲示物等の工夫を話し合った。また掲示物の作成・掲示を行い、児童の反応や使いやすさなどの意見を集め、改良を加えた。

指導案検討部では、誰もが作りやすい、見やすい指導案を目標に指導案の作成を行った。人権的な目標や配慮を指導案に明記し、授業者が意識しやすいよう工夫した。また、過去に人権研究に取り組んだ桜台小学校の指導案を踏襲した。授業内での振り返りが重要と考え、どの教科でも活用できる「ふりかえりシート」の作成を行った。

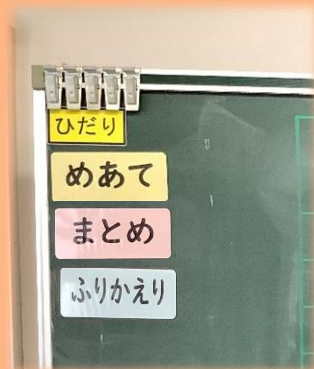
## 環境部

### ・「めあて・まとめ・ふりかえり」ボードの作成

様々な授業の流れを「めあて→まとめ→ふりかえり」で統一することで児童が安心して授業に取り組めるようにした。また、同じ形式のマグネットシートを使い、授業を行った。

### ・ユニバーサルデザインに即した掲示物の作成

掲示物を作成する際、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた。色や文字のフォントに配慮したり、反射の少ないラミネートシートを活用したりと工夫を重ねた。



### 【成果】

- 「めあて・まとめ・ふりかえり」ボードの作成によって、授業に統一感がうまれた。学年・教科・教師が変わっても、児童が安心して学習に取り組めるようになった。
- 常に掲示してあることで児童・授業者が意識して学習に臨むことができた。

## 指導案検討部

### ・指導案の作成

人権的な目標を意識した指導案の形式作りを行った。普段から取り組んでいる人権的配慮に目を向け、指導案にしっかりと明記できるよう形式を工夫した。また、過去の伊勢原市内で行われた人権研究の成果を基に、誰もが作りやすい・見やすい指導案の作成を行った。

### ・「ふりかえりシート」の作成

「ふりかえりシート」を作成する際は、以下2つのことを意識した。

- ① 振り返り項目数の配慮
- ② 各教科で使用しやすいレイアウト

授業の時間が限られている中でも振り返りが確実にできるよう、どの児童も振り返りがしやすい4つの項目(受信・発信合計4つ)に絞った。どの授業でも使用できるよう、レイアウトを工夫した。振り返りを(◎・○・△), (1・2・3・4)などの選択式にし、各教科での編集がしやすいようにした。文言などを教科に合わせて変えることができる仕様にした。

ふりかえりシート		
年 組	番 名	
教 科	国語	
単 元	時計の時間と心の時間	
①	初め・中・終わりの構成や書かれている内容について、自分の考えと比べながら友達の意見を聞くことができた。	◎・○・△
②	納得できる事例について、自分の考えと比べながら友達の意見を聞くことができた。	◎・○・△
③	初め・中・終わりの構成や書かれている内容について、自分なりに分かりやすく話すことができた。	◎・○・△
④	納得できる事例について自分の考えをまとめ、自分なりの表現でわかりやすく友達に伝えることができた。	◎・○・△
【 ステップアップのアイデア ・ 上手にできたコツ 】		

### 【成果】

- 作りやすい、見やすいを意識した形式にしたことで、授業計画のしやすさや授業の見方に変化が見られ、全体会などの議論が活発に行われるようになった。
- 「ふりかえりシート」の形式を統一することで、様々な教科での振り返りが行われるようになった。教科横断的に児童を見取ることができ、自分が担当していない教科の様子を知る良いきっかけとなった。

## 8 研究の成果

チーム成瀬小学校として、教職員が一丸となって研究に取り組むことができた。基本的なこと(無意識で行っていること)を全員で確認(意識化)してコンセンサスを得ることで学校全体に共通した指導がいきわたり、児童が安心して楽しく生活することができた。

### 児童の変容

コロナ禍でマスク生活が始まり、表情の読み取りが難しくなった生活の中で、それでも以前とほとんど変わらない児童同士のコミュニケーション活動が見られた。

これまで学習中に発言する児童の姿は、どちらかと言えば先生あるいは黒板に向かって発表し他の児童(聞き手)への意識が薄かったように思う。しかし、話し方・聞き方の指導を積み重ねることで学級全体に自分の考えを伝えようとする意識が高まり、同時に聞き手も発表者の考えを受け止めようと傾聴の姿勢を見せることで、発言が認められるという安心感のある学級の雰囲気を作られた。その結果、学習中の発言が増えグループでの話し合い活動でも活発な意見の交流が見られた。

児童間のトラブルにおいては、これまで我慢することの多かった小さな問題に対しても困り感を伝えられるようになった。また、先生に解決を頼むだけでなく、児童同士が相手に行動の真意を尋ねるなどして問題解決しようとする姿が見られるようになった。

児童アンケートでは、コミュニケーション力の向上を示す結果が出た。さらに、学習への楽しみや自己肯定感についても肯定的な意見を示す回答が多くなった。

### 各校に伝えたいこと

#### 1. 簡単なことを皆でやる

難しいことをやろうとするのではなく、基本的なこと(無意識で行っていること)を学校全体でコンセンサスを得て、共通の指導とすることで、学びのめあても人権感覚の涵養も両立できると考える。

#### 2. 市内の研究を受け継ぐ

各校での取組を共有し、その時だけの研究にせず市内で受け継いで全員で共有したい。各校の素晴らしい研究内容に対して、自校で取り入れられる部分を精査し、より良い研究の成果につなげたい。

- ◆児童アンケートの文言・・・高部屋小学校の人権研究より
- ◆学習の進め方・・・大田小学校の国語研究「ひ・と・みキラキラ」より
- ◆UDを意識した授業・・・大田小学校のUD研究より
- ◆研究紀要の形式・指導案の形式・・・桜台小学校の研究より

### 本研究の取組・柱・具体的な実践

- |                |                                    |
|----------------|------------------------------------|
| ①呼名のしかたをそろえる   | ⑥隠れたカリキュラムを意識する                    |
| ②挨拶の励行         | ⑦教科目標を達成するための学習活動に人権的な視点を意識する      |
| ③話し方・聞き方の指導    | ⑧アンケートにおけるグループフォームの活用・・・働き方改革につなげる |
| ④「ふりかえりシート」の活用 | ⑨「ゆる～く学ぶ会」・・・教職員相互の研修の場            |
| ⑤全員でやる         | ⑩席替え時のコミュニケーション活動                  |

## 9 研究の課題

### 研究に継続して取り組むこと

本研究の柱は、特別なことをやるのではなく当たり前を意識して取り組むことに意義があると考えられる。しかし、当たり前がすぎて時間の経過とともに意識が無意識に転じてしまうことが懸念される。また、毎年入れ替わる教職員間で指導の温度差ができてしまうこともあるかもしれない。今後もチームワークよく伝達していくことが必要であると考えられる。

### 話す力のその先を見通す

コミュニケーションに重点を置いた指導により、確かに聞く力・話す力は向上した。しかし、話すことに苦手意識をもつ児童は一定数おり、また、話す子(発言する子)が固定化しているという課題もある。引き続き児童が話しやすい雰囲気作りに努めることはもちろんであるが、ただ話すだけではなく学習の深まりに繋がられるよう指導方法などを研究していきたい。

## ご指導いただいた先生方

横浜国立大学教育学部附属教育デザインセンター非常勤講師  
 神奈川県総合教育センター研修研究企画課課長  
 神奈川県教育委員会中教育事務所指導主事  
 伊勢原市教育委員会指導主事  
 伊勢原市教育委員会指導主事  
 星槎大学大学院教授

小宮 龍一 先生  
 梶原 三恵子 先生  
 加藤 直子 先生  
 小菅 聡子 先生  
 笹木 三都子 先生  
 阿部 利彦 先生

## 研究に携わった教職員

### 令和4年度

※◎研究主任 ○研究推進委員

今井 仁吾	柴野 科子	○横森 栄一	正田 明代	篠崎 侑稀乃	落合 友美
神崎 福代	足立 光太郎	本田 早佑里	○北川 慧	佐藤 真理紗	本間 千尋
奥田 啓	斎藤 佳穂	○石川 明子	○花田 佑輔	大谷 紗和子	杉崎 智沙
大泉 拓也	上野 修一	本間 佳美	山下 莉紗	○出口 一輝	榎本 浩
○眞野 雄門	畠中 良知	永淵 歩美	柏木 正貴	羽山 智晶	◎深津 貴志
○鈴木 和巳	横枕 薫	林 麻美	梶川 知子	山本 絵美子	高橋 まゆみ
曾我 郁	海老根 彩	○江藤 奈夫子	浜岡 篤史	山下 美恵子	植松 弥生
斯波 ちひろ	松原 ヒサ子	森成 治美	黄塚 美穂	小泉 順子	斎藤 恵司
森 典子	石井 まゆみ	磯部 珠実	岡本 直子	内藤 直子	岡田 則子
重田 友香	伊地知 佳子	榮 好美	斗澤 李孔	相澤 實	福田 亨
吉川 明美	大貫 宏美	森 恵美	嶋村 淳子	谷中 博美	薄井 緑
西村 廣美					

### 令和3年度

櫻井 綾子	船木 美恵子	畠中 美音	日比野 愛実	徳永 沙織	海老根 小百合
嶺岸 ちひろ	佐野 智子	小倉 千景	海野 京美	山本 香緒里	及川 しず子
永野 聡美					

### 令和2年度

山田 芳之	山田 一聡	石川 幸一郎	平林 京三	鈴木 雅之	紀平 栄二
森崎 美代子	片桐 康子	浪華 俊江	服部 憲治	永岡 美乃	

## 参考文献

『通常学級のユニバーサルデザイン』プラン Zero2 阿部利彦 編著 東洋館出版社  
 『教職員のためのアサーション実践 50 例 会話で学ぶ豊かなコミュニケーション』沢崎俊之 編著 第一法規  
 『教室マルトリートメント』川上康則著 東洋館出版社